

令和6年度 第1回社会教育委員会議（要旨）

- 1 日 時：令和6年5月9日（木） 10：00～11：20
- 2 場 所：生涯学習総合センター 3階ホール
- 3 出席者：委 員 野依議長 他 9名
事務局 総務市民局長 他15名
- 4 議題、議事の概要
 - (1) 総務市民局長あいさつ
 - (2) 議題
 - ア 令和6年度生涯学習推進計画の主要事業について（取組予定）
 - イ 令和6年度の社会教育関係団体補助金について
- 5 主な質疑応答、意見等

議題（ア）令和6年度生涯学習推進計画の主要事業について（取組予定）

事務局：《事業について説明》

委 員： 冒頭で、前回の意見（事業の並びを変更）を反映しているということだが、具体的にどこの部分なのか。

事務局： リーフレットの4ページ、プランの体系として「施策の柱」、「具体的な施策」、「取り組み」の並びについては既に決まっているため、この「取り組み」にぶら下がる事業の並びについて、前回の会議で委員よりご提案のあったとおり、ターゲットが全般網羅型、次に年代別、その次に講座のジャンル別というような順番にさせていただいた。

委 員： 前年度までは予算措置の段階でまだコロナ禍だったが、令和6年度の予算は従来コロナ禍で実施できていなかったことの縛りがなくなったかと思う。実際には令和5年度の評価を経ないと分からないかもしれないが、コロナ禍を経て、こういうところを伸ばす、復活するといったところが、資料に見受けられなかった。民間企業では、どうアップデートしているかというのは注目されるところ。そこは次回の評価を待ちたいと思うが、コロナ禍を経た、特に対面とオンラインとハイブリッドをどう評価して事業に活かされているかというのは注目したい。

次に、事業のターゲット。事業概要を見ると、どういう世代をメインターゲットとしているかがある程度推測はできるが、コロナ禍はどうしても高齢者向

け、基礎疾患がある方など福祉の面を含めて予算措置されていたのが分かる。コロナ禍の縛りがなくなった令和6年度、新市長も人口をどう戻すかといったことを度々発信されているので、働く世代や子ども向けに生涯学習の予算がどれだけ振り分けられるかという視点でも見てみたが、どうしても高齢者向けの予算が維持、あるいは増えている。一方、次世代向けの予算、例えば8ページの36番(「子育てネットワークの充実」)、2ページの9番(「ESD推進事業」)、3ページの11番(「育児サークル・フリースペース活動への支援」)など、令和6年度でさらに下がっているところが、非常に残念だと思った。コロナ禍以上に高齢者に予算シフトされているところが、生涯教育全体としてどうなのかと思う。全体的な所感だが、先ほどのコロナ禍以降の総括のところと、世代ごとの予算配分が非常に気になった。

議長： まず、コロナ禍を経ての取組みの変化について、現時点での考えを聞きたいということと、2点目は、予算全般を見たところ、高齢者向けは増えているけれども、次世代向けの予算が少し減っているところもあるので、その辺の予算配分はどうかというご意見があった。

事務局： 1点目、オンラインを含めた形は、コロナ時は多くあったが、コロナが開け始めてから、やはり対面がいいという声もあり、一堂に集まって実施することも増えている。現在、ハイブリッドも十分活用しており、今後も地域等の実情を見守りながら、その性質に合った体系をとっていきたいと考えている。

2点目、令和6年度予算については、全ての事業について再度一から見直すという「事業の棚卸し」が行われている。その中で、特に高齢者に手厚いということではなく、1つの例でいくと、これまでの事業実績に見合った額に下げるといったことが行われている。例えば市民センター全館に人を配置したいという思いがあっても、コーディネーターがいなくて、実績として実際の配置が半分程度になっているとしたら、全館配置したいのは分かるけれども、予算としては半分強くらいにする、というような形での削減となっている。一概にこの世代を減らしているとか、そういった動きではないので、ご理解いただきたい。

委員： 予算の令和6年度と5年度のトータル金額はどのようになるのか。去年はトータルで幾らだったのが、今年は幾らで、対前年に比べて何パーセント減になったとか、そういう出し方はしていないのか。

事務局： そういう出し方はしていない。

委員： 民間は複式簿記でやるが、市はどちらかというと単式簿記なので、継続性がない。去年の結果で次の予算を取りに行くのではなくて、最初から、来年度はどのようなものをするかということでやっている。そこはもう仕方がないが、どのくらい減っているか理解したい。

事務局： 次回までに予算額で比較を作ってみたいと思う。

事務局： 3月に新たな新ビジョン、「基本構想・基本計画」というものを作り、事業の枠組みが大きく変わっている。生涯学習に関わる部分は、「安らぐまち」の実現という形で、いろいろな事業の組み替えを行って、今回ご紹介しているところ。次回の会議の時には、それも踏まえて全体、生涯学習に関わる部分がどう変化したのかはお示しできるかと思うが、形として枠組みが大きく変わっているの、見せ方として、今こちらの資料で示しているものについては、額がかなり動いて見えるような形になっているというところはご了承いただきたい。

委員： 基本的には、市長が言うとおりの「稼げるまち」で収入が多くなると、いろいろなことができにくくなる。ぜひ「稼げるまち」のほうで稼いで、こういう団体にどんどんお金を出してくれると非常にありがたい。

委員： 2点お尋ね。5番の「生涯学習市民講座の充実」で、より地域の特性を活かした講座という部分があったが、私が住んでいる区の講座では、あまり特色が出ていなかった。計画以前に、どのように市民センターへの助言をされているのか、併せて、予算削減の中、ほかの所管課の事業との連携については検討しているのか。

もう1点、地域の人材の育成というのは喫緊の課題で、人材育成の事業もされているが、この育った人材がどうつながっていくのか、つなぐ・つなげるところをどのように進められているのかをお聞きしたい。

事務局： まず、地域の課題に即したというところでいくと、市民講座については、市民センターが中心になって考えているものであり、当方としては館長やセンター職員への研修で、地域の声に耳を傾けるよう、地域の実情に合った取組みにさせていただくようにお伝えしているところ。まだ十分ではないかもしれないが、今後もそのような形で地域課題に応じた取組みをするように努めてまいりたい。

ほかへのつながりということについて、今、館長にアンテナを高く張るように研修でもお伝えしており、活動に参加している方の中から、次の世代を担うような方に声掛けをしている。例えば社会教育主事補や地域のコーディネーターになってみないかという声掛けをしながら、次の世代の人材を確保している。少し活動に来ていただき、力になっていただくような形での育成を進めている。

事務局： 2点目の地域の人材育成について、学びと活動をつなげるという部分、資料の6ページの23番「学びから活動への仕組みづくり」では、実際に学んだ方へ、こういった活動に興味があるかというアンケートを実施し、マッチングにも取り組んでいるところ。令和5年度については集計中だが、令和4年度は、講座を受けた方とボランティアについて、122件マッチングした。

委員： 122件のうち、何か代表的な具体例はあるか。

事務局： 内容については、少し大枠になるが、地域活動が102件。地元のほうで活動していただいている。

議長： 育成した人材を次の活動につなげるというのは長年の課題で、なかなか見えにくいところであり、件数で数えるのもどうかとは思いますが、学んだことを活動や自己実現につなげるということは必要なことだと思う。

館長の研修など充実してやっているようだが、女性のリーダー育成ということで、人材育成の流れで館長を生み出していき、さらに社会教育主事というような流れを今後もきちんと維持していただきたい。

委員： 5ページの19「人権市民講座」、6ページの23（学びから活動への仕組みづくり）「ボランティア講座」など、たくさんの講座をされるが、そのあとの検証。市民センターの人権市民講座ではいろいろなものと織り交ぜて簡単に見やすくしているところが多いが、人権ということをセンター自身が伝える機会が少なく、講師にお任せで、PDCAサイクルがあまり活かされてない。せっかく人づくりアドバイザーがいるので、もう少し踏み込んで、この講座でアンケートが出たら、その次につなぐこと。やりたい人、活動したい人もいるので、リストアップしてアクションを起こさないと、PDCAのActionがとても弱いように感じる。館長の研修の中で、なぜPDCAサイクルなのかというのをもう一度きちんとやってほしい。検証をもう少し煮詰めていくと、学んだ成果を活かしやすいという声を聞くので、そこをぜひもう少し突っ込んでほしい。

事務局： 今のご意見を踏まえ、ぜひそういった形で取り組んでまいりたい。

議題（イ）令和6年度の社会教育関係団体補助金について

事務局： ≪概要について説明≫

議長： 意見を伺う前に、関係団体の皆様に、一時退席をお願いする。

≪関係団体委員退室≫

委員： 全体の予算が縮小され、やむを得ず全体的に予算を削らざるを得ないという原理原則がある。そうすると、全体でこの予算は変わらないと。したがって、配分がこれでいいかどうかという程度の意見になる。

事務局： 委員が言われたように、非常に議論しにくい内容だと思う。市では新ビジョン、基本構想・基本計画を策定し、併せて市政変革推進プランを3月に作成している。先ほど委員から「稼げるまち」という話があったが、それをまず実現して、それから「安らぐまち」や「彩りあるまち」につなげていこうということになっている。まずは、今、非常に市の財政も厳しい状況になっている。限られた予算をどう配分していくかということで、昨年度1年間、全ての事業を棚卸しして、一つ一つ、昨年どおりではなくて、本当にこの予算でいいのか、この事業でいいのかというのを検証したところ。まだ実際には検証途中の部分もあるが、そういった中で今回見直しをしているので、会員数の状況や参加人数を見ながら減らすなどしたところもある。なぜここを減らしたのかということも個別にはあろうかと思うが、先ほど言われたように、全体の中でご意見を頂ければありがたいと考えている。

委員： この補助金の案を作るときには各社会教育関係団体にヒアリングなり、意見を聞くなり、団体に対しての情報収集はされたのか。北九州市生涯学習推進計画ないしは社会教育の振興のため、基本的には、当然それぞれの社会教育関係団体が努力されていると思うが、新たに取り組むという計画を立てることも必要だと思う。現在の事業も必要だが、ヒアリング等の意見も聞いた上だと、将来的な前に向けた議論ができるのではないかと思う。

事務局： 直接にはお伺いしていないが、日々、それぞれの団体と付き合いがある中で意見交換をさせていただいている。参加人数が200人予定していたところが100人だったというようなところで少し予算を減らしたりしている。

委員： （参加人数が減った）背景の1つに、コロナの状況があった。コロナの状況から開けて、今、どんどん活動が活発になっていっている。また、コロナの状況で人があまり参加できなかったところの振り返りを基に将来ビジョンを考えていくというところが、社会教育関係団体の1つの課題となっているので、意見を聞いたほうが、普及推進という趣旨からいくといいのではないかと思う。

委員： 1ページの「(北九州市) 婦人会連絡協議会」の予算が削減率5割となっているが、この内容だけでは分かりにくい。どういうことで5割削減になったのか。

事務局： （機関誌の）発行部数や活動状況について検討した（上で削減した）。

議長： ほかに意見がないようなので、退席いただいた委員の方に戻っていただく。

《関係団体委員入室・着席》

その他意見

委員： 今後の予定として、次回、令和5年度の事業評価という話があったが、その他の開催予定と、予定されている議事を教えていただきたい。

前期では、毎回協議テーマがあって、議題1の主要事業に関して、社会教育主事がファシリテーターとなって、委員の皆さんの知見などを踏まえた意見交換と、提案を含めたものがあったが、今年度はそういった、あるいはそれに代わるものはどういうことを予定されているか。

事務局： これからの生涯学習、社会教育の方向性について、現在の生涯学習推進計画が令和3年度から令和7年度までなので、次期の推進計画等も踏まえて、今後の社会教育等の考え方をテーマとして検討しているところ。

委員： 単に説明を受けて質疑応答するだけではなく、グループワークをすると話が建設的に広がり、「自分だったらこうやってみたいな」というアクションのヒントが生まれる。前期のような協議テーマに関するグループワークは非常に有効であったと思っている。それが予定されていないのであれば、席を毎回シャッフルしたほうが、いろいろな方とお話ができるのではないかと思う。

議長： 前期にグループワークをしたのは、市民センターがどういう活動をしていて社会教育・生涯学習とはどういうことなのだというのを、委員のみんなで学ぼうというのが大きな目的だった。テーマごとに注目されている市民センター4つに出てきてもらい、取組みについてグループで話し合いをしてもらうというのが前期の協議の1つだった。今の話だと、グループワークにふさわしい議題を何か設定したほうがいいのではないかということと、例年の議題についてグループで討議する時間を設けたあとに質疑応答、グループでどういう意見が出たかというのを全員で共有していくという方法がいいのではないかという、2点があるかと思うが、いかがか。

委員： 私自身に具体的な提案はないが、前期と定例の議題だけのビフォー・アフターを考えたときに、前期のほうが活性化していた。皆さんからの意見も踏まえて、アップデートできる面もあるかもしれないという提案。協議テーマがあればそれをベースに意見を出しやすいと思うし、協議テーマがなくても、配席を毎回変えるだけでも、いろいろなお話が左右の方とできるかと思う。

委員： 賛成。そのほうが意見を言いやすい。

委員： 議題1、2の事業報告については、何人かで話し合うと、理解の仕方の幅が広がると思うので、そういう方法もありだと思う。

議 長： 全体的にみんなで意見を言いやすい形がいいということによろしいか。
(一同「異議なし」)

議 長： その場合、グループで話をするのと、この並び(コの字型)でシャッフルと、どちらがよろしいか。

委 員： 異論はないが、テーマは市が考えるのではなく、我々委員が、こういうことで意見交換したいとか、具体的にこういうことをしてほしいということがあったほうが、より効果があるのではないか。隣同士では雑談しかできない。やるとしたら本格的にテーマを決めて、そのテーマに関してみんなの意見を聞くというのがないと、あまり効果がないのではないかと思う。

議 長： 事務局としては、対応は大丈夫か。

事務局： もしそのような形で実施するとなれば、例えば事務局から委員の皆様方に、テーマを伺い、取りまとめた上で、一番希望が多かったテーマをで協議するというような形が考えられる。

議 長： もう一つ、別にテーマを設定しなくても、事業の審議について事務局からの説明のあと、意見聴取前に時間を取って、各グループで意見を出すという方法もあるかと思う。

委 員： 事前にテーマを決める形であれば、私たち社会教育委員が本当にしなければいけないことが見えてくると思う。

議 長： 社会教育委員の会議としては、こうした事業の審議はしなければいけないことなので、その時間は確保した上で、グループ討議で意見交換もする。余った時間で何かその時その時のテーマで意見交換をする。そういう会の持ち方によろしいか。
(一同「異議なし」)

議 長： そうなると、グループ討議のために時間を5分、10分取らないといけないが、そのための時間が少しかかるかと思うが。

委 員： 全部グループ協議にすると時間がかかるので、2時間という時間の枠の中で終わるような工夫も当然必要になってくると思う。

議 長： その時の議題を考慮しながら話を進めるようにするというので、途中で座席を変わるのも難しいので、最初からグループの座席にするということになるかと思う。

委員： 机の並べ方の配置で解決できるのではないか。

議長： どういう形で進めるかは、事務局と相談したい。ひとまず今日のところは、グループ討議を取り入れること、そして、話し合える時間があれば、テーマで話し合うことも取り入れる。その2点を確認ということでよろしいか。具体的にはまた事務局と相談しながらということになるかと思う。

事務局： ご意見は承った。議長と相談しながら検討したい。

議長： ほかの委員の方も、よろしいか。
(一同「異議なし」)

委員： いろいろ予算を削減しないといけないという事情はやむを得ないが、もう少し行政といろいろな団体がスクラムを組んで、地域ボランティアを有効活用したりして、予算が減った分をカバーすることを考えてほしい。

事務局： おっしゃるとおり、限られた予算の中で、行政だけではどうしても賅いきれない部分は、地域の方やボランティアの方々に協力いただきながら進めていく必要があると考えている。

経営分析の流れで、実績に基づいた政策立案が必要になってきている。現状をきちんと踏まえた上で、KPI等も含めて、ボランティアの目標がどこまであれば我々が考えているようなものや地域のニーズに沿ったものができるのかという、数値的な指標等も考えていきたいと考えている。